

上田第三中学校における音声教科書の活用



現状と、今後の課題

H29年度 長野県 上田市立第三中学校

宮崎 直次

I 音声教科書の活用の状況

H29年度、9月現在での、本校における「音声教材(DAISY)」の活用状況について、まとめてみました。

1 概要

① 使用台数 iPad 3台(A、B、C)

② 使用教室(場所)

A : 通級教室(おおぼし教室)

B : 自・情緒学級(むつみ2・3教室)

C : 知的障がい学級(むつみ1教室)

③ 使用生徒と人数

A : 自校と他校の通級教室生徒 5 名

B : 主に自校の自・情緒学級生徒 2 名

C : 主に自校特別支援学級生徒 6 名

④ 使用内容

A : DAISY教科書・Producerで作成した資料

B : DAISY教科書・Producerで作成した練習問題と、
校内の中間・期末テストを音声教材にしたもの

C : DAISY教科書・Producerで作成した資料

2 活用の具体

(1) 通級教室(おおぼし教室)

① 通級教室の様子

通級教室(おおぼし教室)は、平成29年度(今年度)長野県の中学校では初めての通級教室として誕生しました。

今年度立ち上げたばかりの通級教室ではありますが、6月の早い段階で利用生徒も10名を超え、自校生・他校生、午前・午後・夕方と学習しています。



(1) 通級教室(おおぼし教室)

② 次第に増える、音声教材の利用を希望する生徒

通級教室を利用する生徒の中には、書字困難、書字障がいを抱える生徒が多く在籍しています。

本人から・家庭から・担当の先生から・時には支援会議の方向として、音声教材の使用を試みて欲しい、と希望が来ます。

こうした声は、日をおうごとに増えています。



(1) 通級教室(おおぼし教室)

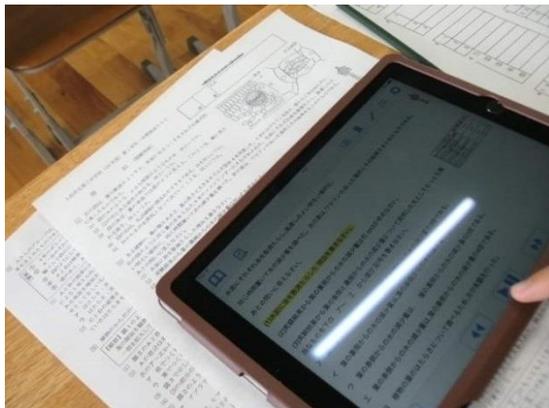
③ 活用内容

- a) 予習・復習のために、教科書を読むその補助として使用する生徒が、今は一番多く居ます。
- b) **読む練習**そのものための補助として利用を希望する生徒もいます。一緒に読んだり、交互に読んだり、ハイライトの部分を頼りに、繰り返し読む姿が見られます。
- c) 教室の授業や「定期テストも音声教材を利用して行いたい」という生徒が、出てきました。
自校生についてはそのための試行に取り組み始めましたが、他校の生徒については、コーディネーターを通して連絡しています。が、まだ幾つものハードルがあり、思うように進まない現実があります。

通級教室での活用の様子



作成した練習問題の音声教材を使って授業



定期テストを音声教材にして再挑戦

2 活用の具体

(2) 自・情緒学級(むつみ2・3学級)

① 自・情緒学級の様子

本校の自・情緒学級では、自分で原籍学級の授業か特別支援学級の授業かを選択し、学習に参加しています。そうした事から、かなり流動的な時間割となっていて、一週間の中でも参加教科が数回変更になる生徒も見られます。

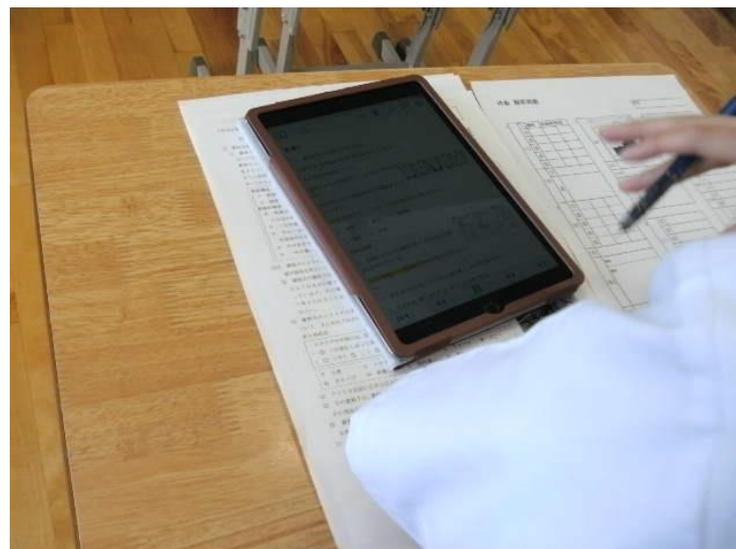
しかし、多くの生徒が徐々に原籍学級の授業に参加できる時間を増やし、中には退級していく生徒も見られます。

(2) 自・情緒学級(むつみ2・3学級)

② 増える、音声教材の利用を希望する生徒

自・情緒学級を利用する生徒の中にも、書字困難、書字障がいを抱える生徒が多く在籍しています。

通級教室と同様に、こちらも、本人から・家庭から・担当の先生から・支援会議の方向から、音声教材の使用を試みて欲しい、と希望が来ます。こうした声は、やはり増えています。

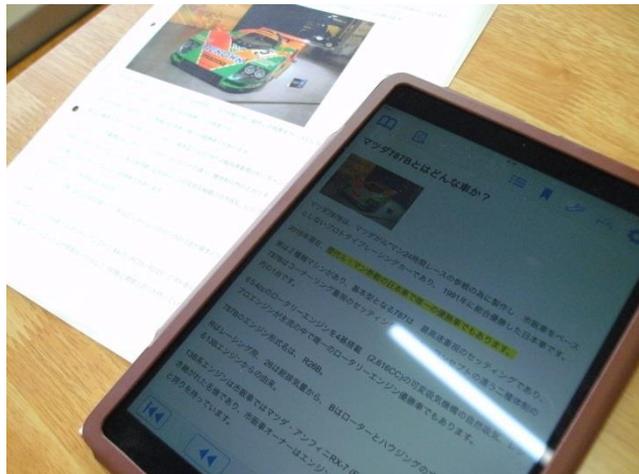


(2) 自・情緒学級(むつみ2・3学級)

③ 活用内容

- a) 予習・復習のために、教科書を読むその補助として使用する。
- b) **読む練習**そのものための補助として利用をする。
一緒に読むたり、交互に読んだり、ハイライトの部分を頼りに、繰り返し読む姿が見られます。
- c) 定期テストを音声教材を使ってもう一度やってみたいと、夏休み明けに生徒から申し出がありました。
現在Producerで作成した期末テスト問題をやり、その様子から2学期中間テストで音声教材を利用して、テストを受ける事はできるのか？その試行として学校全体で取り組んでいます。

むつみ2・3教室での活用の様子



2 活用の具体

(3) 知的障がい学級(むつみ1学級)

① 知的障がい学級の様子

むつみ1学級は知的障がいの学級です。ただし、朝の学活や給食清掃なども全員原籍学級に参加し、授業も自・情緒学級の生徒と同様に選択しながら、柔軟に参加しています。

今年度より、授業で作業学習(陶芸)に取り組み始め、「おおぼし焼」と命名して挑戦しています。

(2) 知的障がい学級(むつみ1学級)

② 活用内容

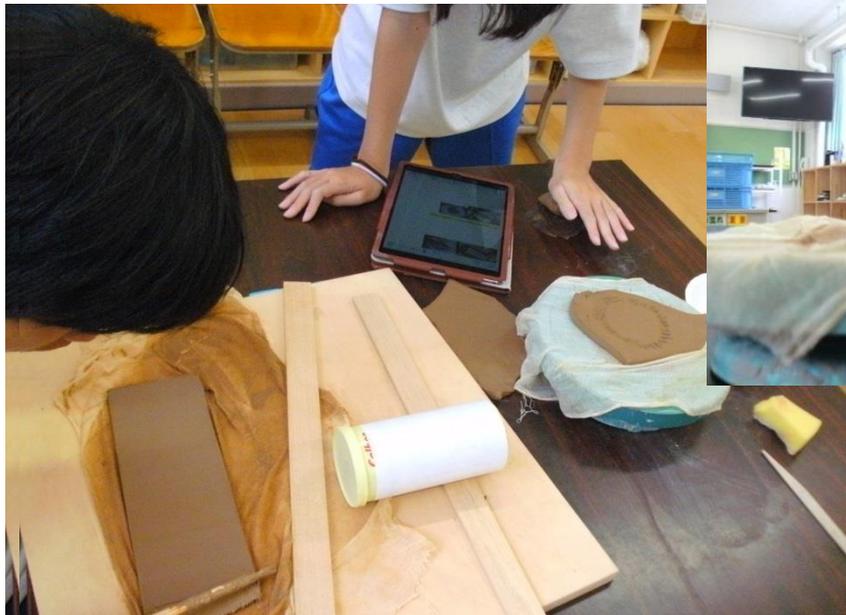
知的障がい学級の音声教材の利用については、教科書として利用する方法の他に、作業学習などにおいて、作業工程や注意事項の説明を音声教材化し、生徒が必要な時に必要な説明・注意等を、写真や文字や音声で確認する事ができるように準備しました。

このことにより、『教えられる』という学習から、『自ら学習する！』という状況が生まれています。





むつみ1学級（作業学習の様子）



3 本校における、音声教材の 今後の方向と課題 a

- ① 現在試行の段階である、定期テストの音声教材化について試行の結果を基に、本人・家庭・担任を中心として、学校全体で検討し、方向を決めていきます。

しかし、この場合課題となっているのは、**音声教材を利用したテストが、そのまま高校入試につながっていくのか？**という問題です。

あくまでも、中学校の学習支援のための音声教材、として、学校の授業やテストのみの利用を目的とするのか、その先の高校入学テストでの利用につながるものなのか・・・
(是非そうなって欲しいと思いますが)

この問題は、個別の支援計画への位置付け方や、通常学級での活用も含めた、今後の方向に大きく関わる事であり期待と注目をしています。

3 本校における、音声教材の 今後の方向と課題 b

② 次に課題としてあげられるのが、利用希望者数に比べて、機材の台数が少ない点です。この課題は次にあげる課題点にもつながる部分ですが、多くの機材があれば、更に利用できる人数はもとより、利用内容も広がって行くものと思われれます。

③ 最後に、むつみ1学級でみられるような、その他の利用方法について、幅広く求めていく事が、これからの楽しい課題であるとも、思っています…

おわり

